

グローバリゼーションと標準 国際標準化の世界動向

田中 正躬
(前 ISO 会長)

今進行しつつあるグローバリゼーションは情報技術と市場経済の仕組みが結びつき、世界中が緊密な結びつきのもとで、企業や公的機関の活動が行われている。そこでは相互に理解を深めたり、互換性が確保されるための標準が重要な役目を担っている。企業のマーケティングを始めとする経営戦略上のデファクト標準や公的標準が以前にも増し重要になってきている。

このような状況の中で、国際標準を作成している ISO（国際標準機構）の役割が高まっているが、ここでは公的な標準組織での新しい課題の取り組みを述べる。

第一に、従来標準作りはエンジニアリングに係わる互換性を中心とするハードな標準であったものが、グローバルな課題に応えるため地球環境問題、セキュリティ、あるいは組織の社会的責任、サービスなどソフトな標準作りが重要になっている。このような標準は、組織の管理の信頼性をより高めるための情報の提供や価値観の異なった人々の間での相互作用をより容易にするための行動基準を与えるより広い標準の範疇である。

第二に、市場経済のもと、民間部門の自主的な活動を促進するための公的な強制法規の代替あるいは補完を行うため、任意規格あるいは国際的に統一された適合性評価の利用の促進があげられる。特にわが国のように規制緩和が政策として重要な経済社会にとっては意義の大きい課題である。

第三は、国家の標準戦略を定め、国際競争力を高めたり公共政策に標準を利用しようとする試みが多くの国で始まっている。この課題は、先進国のみならず、多くの発展途上国でも共通のものである。嘗てわが国では、世界中の優れた規格を JIS 規格に集約させ産業発展に役だてたように、現在多くの発展途上国では、標準を用いて産業の高度化を目指そうとしている。同時に上記の新しい課題を達成するため ISO では、多くの関係者に標準の意義を理解してもらう必要があるため、標準の社会的経済的な便益を分析した文献の収集や高等教育での標準教育の普及のための表彰制度を設けるなどの試みが行われている。